

## ◇領家大山石灯籠（所在地／上尾市大字領家189番地3 領家農村センター）

本来の石灯籠の構成材ではないが、泥板を敷いて大きな基壇を据えて造立しているため、安定性が感じられる。形状は、四角形を呈し、基礎・竿・中台・火袋・笠を重ねる。笠から上の構成材を欠失するが、笠上面に二段の薄い座が造りだされているので、露盤が重ねられていたものと推測される。火袋の奥に「三つ穴紋」が、左右にそれぞれ「日」「月」の透かし彫りがある。竿部正面に「阿夫利神社」と大書し、右側面の明治三十六年の紀年銘から、神仏分離以降の時代の造立であることが判る。個人による造立であることも特徴である。

## 法量（センチ）

総高	200.0				
基壇高	25.0	幅	93.0	奥行	92.7
基礎高	31.0	幅	55.2	奥行	54.7
竿高	71.5	幅	29.2	奥行	28.8
中台高	16.5	幅	46.8	奥行	45.5
火袋高	27.0	幅	29.0	奥行	29.0
笠高	33.0	幅	62.0	奥行	62.5

